

特集



令和2年10月22日
東京税関



ボトルワインの輸入と日本酒の輸出



- ★ボトルワインの輸入数量及び金額は堅調に推移！
- ★2019年はEUからのワインの輸入が増加！
- ☆日本酒の輸出数量はこの10年間で2倍超！

はじめに

今回は、秋の夜長のお供に「お酒の話題」を2つお届けします。

ワインは、高度経済成長を経た1970年代の食生活の多様化や外食の普及と、外国産ワインの輸入自由化(1970年)とが相まって本格的に広がり始めたと言われ、この50年間ですっかり身近なものとなりました。

ワインの新酒にあたるボジョレー・ヌーヴォーは、解禁日が世界的に11月第3木曜日の午前0時と定められていることから、日付変更線に近い日本は世界一早くこのワインを味わえるとあって、ワインブームの火付け役となりました。現在でも初物を楽しむ習慣がある日本人には根強い人気があります。

ちなみに、今年の解禁日は11月19日(木)となります。

一方、日本酒は、近年海外への輸出が増加傾向にあります。現地では、「SAKE」と表記して販売されているそうです。

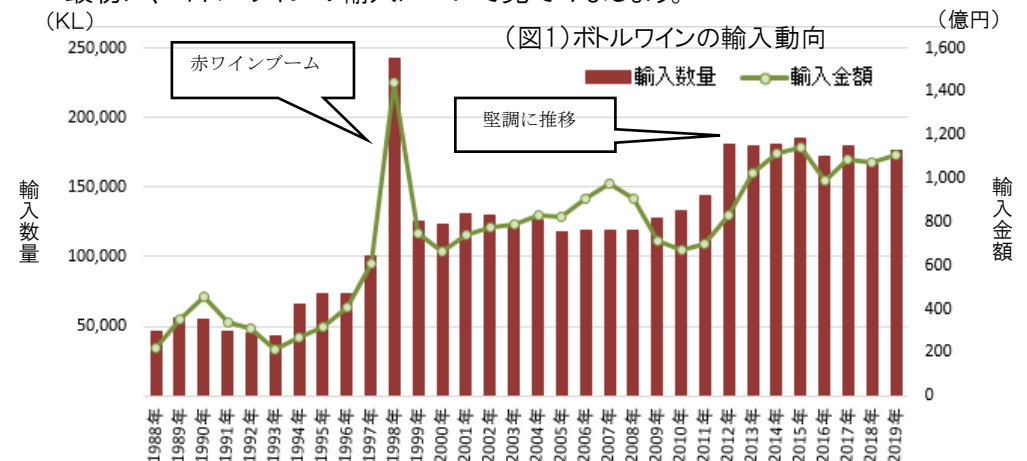
日本酒の起源は定かではありませんが、米を原料とするお酒の造り方に関する最も古い資料^{*}は奈良時代のものでされ、これを日本酒の起源とするなら、日本酒には1000年以上の歴史があることになります。

今回は、ワインのうち2L以下の容器入りにした「ボトルワイン」と、「日本酒」を取り上げます。

※「大隈国風土記」(713年以降)、「播磨国風土記」(716年頃)

ボトルワインの輸入

最初に、ボトルワインの輸入について見てみましょう。



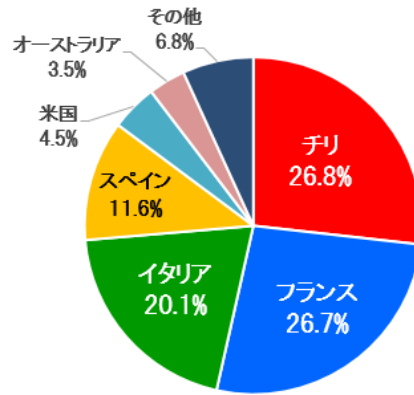
1998年は、輸入数量及び金額共に突出しています。赤ワインに含まれるポリフェノールの効用が広く取り上げられた、いわゆる「赤ワインブーム」の年でした。近年は、当時ほどの伸びはありませんが、輸入数量及び金額は堅調に推移しています。

本特集の「ボトルワイン」は、
輸入統計品目番号の2204.21-020(ぶどう酒のうち、2ℓ以下の容器入りにしたもの)
本特集の「日本酒」は、
輸出統計品目番号の2206.00-200(清酒)
に分類されるものについてまとめたものです。

国別動向

ワインは、ヨーロッパや中南米の他、北米、オセアニアなどからも輸入されています。2019年の国別輸入数量割合では、チリ、フランス、イタリア、スペイン、米国、オーストラリア産の順で多く、この6か国で全体の9割を超えています。

上記の6か国について、国別輸入数量の推移をグラフにしたのが図3です。フランス産が長らくトップでしたが、チリ産が品質向上してきたこと、2007年9月に発効した日チリ経済連携協定(EPA)により関税が段階的に引き下げられたことなどから輸入数量が増え、2015年からはフランス産を抜いて1位になりました。

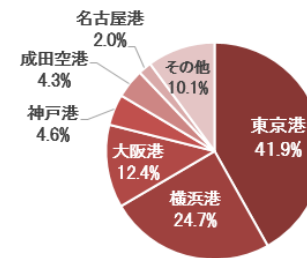


(図2) 国別輸入数量割合 (2019年)

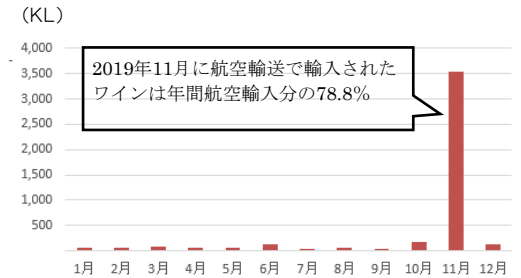
港別動向

2019年の港別の輸入数量では東京港がトップとなっています。

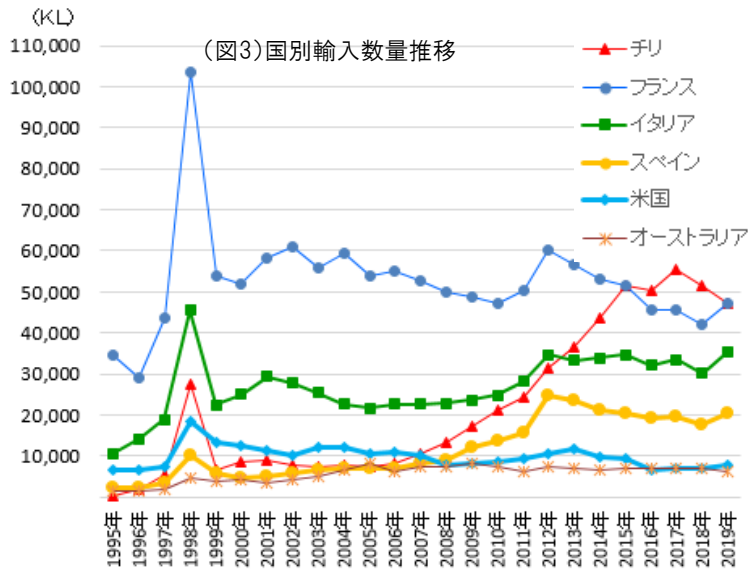
ワインは、リーファーコンテナという冷却装置を備えたコンテナなどを使用して大量に海上輸送される割合が多く、航空輸送される割合が比較的少ない品物です。図5は2019年の航空輸送による輸入数量を示していますが、年間の約8割が11月に集中していることがわかります。これは、ボジョレー・ヌーヴォーの輸入の影響によるものとみられています。



(図4) 港別輸入数量割合 (2019年)



(図5) 月別輸入数量 (2019年、航空輸送分)



(図3) 国別輸入数量推移

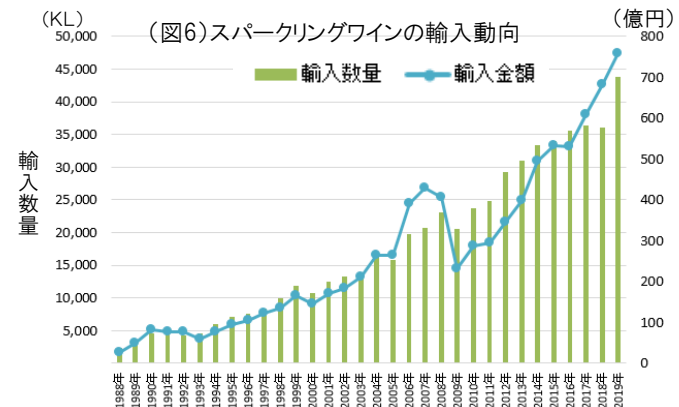
メモ: このワインも人気!



2019年は、チリ産の輸入数量が減少した一方で、フランスやイタリア、スペイン産の輸入数量が増加しました。これは、2019年2月に発効した日EU経済連携協定(EPA)により、関税が即時撤廃された影響によるものとみられています。

スパークリングワインの輸入動向

スパークリングワインは、発泡性でおしゃれなイメージがあり、軽い口当たりで多くの料理にマッチし、リーズナブルな価格のものが多くことから、人気が高まっています。2019年の輸入数量及び金額が1988年以降過去最大となりました。



(図6) スパークリングワインの輸入動向

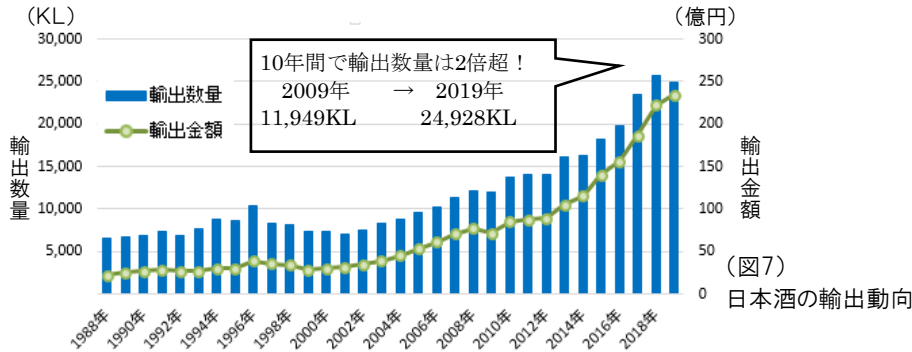
「スパークリングワイン」は、輸入統計品目番号2204.10-000に分類されるものです。



日本酒の輸出

次は、日本酒の輸出について見てみましょう。

2019年は、輸出数量が前年比96.8%とやや減少したものの、輸出金額が前年比105.3%と増加しており、近年は総じて増加傾向で推移しています。



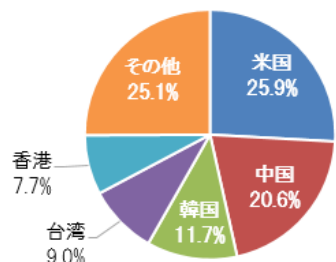
2009年と2019年の輸出数量を比較すると、10年間で2倍を超えて増加していることがわかります。

近年、海外に和食レストランが増加したこと、2013年に和食がユネスコ無形文化遺産に登録されたことなどから海外で和食が注目される中、日本酒もその味が広く知られることとなりました。訪日外国人観光客がお土産として購入して持ち帰ったことも、海外での人気の要因とみられています。

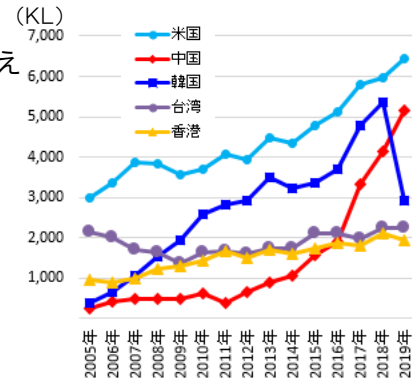
国（地域）別動向

国（地域）別では、米国が輸出先の1位となっています。米国は食文化が多様であることから、日本酒の味が受け入れられやすかったものとみられています。

また、近年では中国への輸出が増加しています。これは、富裕層に対する販売が増えていることが要因とみられています。



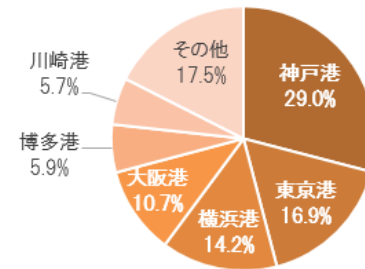
(図8) 国（地域）別輸出数量割合（2019年）



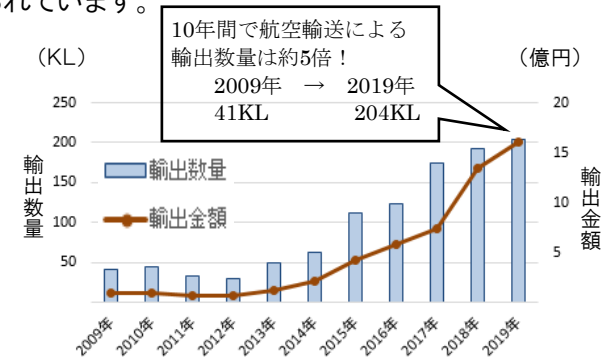
(図9) 国（地域）別輸出数量推移

港別動向

2019年の港別の輸出金額では、日本有数の酒どころを抱える神戸港がトップで、東京港は2位となっています。日本酒は海上輸送で輸出されることが多い品物ではありますが、近年、航空輸送により輸出される数量及び金額が増加しています。これは、例えば「純米吟醸酒」などの付加価値を高めた、高価格帯の日本酒の輸出が増えていることによるものとみられています。



(図10) 港別輸出金額割合（2019年）



(図11) 日本酒の輸出動向（航空輸送分）

おわりに

ワインは、スーパーマーケットやコンビニエンスストアなど、多くの店舗で取り扱われています。また、インターネットショッピングの普及もあり、家に居ながら世界中のワインを楽しめるようになりました。

日本酒は、近年、農林水産省や国税庁などが輸出推進している日本産食品の品目のひとつです。新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴い訪日外国人観光客が減少し、インバウンド消費の回復はすぐには望めないものの、日本産酒類の輸出を後押しする観点から、令和2年度税制改正において、輸出用清酒製造免許制度という新しい制度が設けられました。酒税法では、需給の均衡や事業の安定性の観点から、1年間に酒類を製造する数量について最低数量の制限が設けられています（清酒の場合は60キロリットル）が、輸出用に限って、この基準を適用しないこととされました。これにより、高付加価値商品を少量から製造できることとなり、ブランド化を図ると共に、輸出力の強化を目指しています。

ワインが「世界から日本へ」のお酒と言うなら、日本酒は「日本から世界へ」のお酒と言えるでしょう。

ボトルワインの輸入数量・金額推移

(単位 数量:KL 金額:億円)

年	輸入数量	輸入金額
1988年	46,559	217
1989年	56,238	351
1990年	54,917	454
1991年	45,982	336
1992年	45,210	313
1993年	43,457	214
1994年	65,236	272
1995年	73,724	315
1996年	72,924	409
1997年	100,437	605
1998年	242,500	1,439
1999年	125,259	748
2000年	123,605	660
2001年	130,653	738
2002年	129,612	776
2003年	123,122	791
2004年	126,109	831
2005年	118,108	823
2006年	119,405	910
2007年	119,044	978
2008年	118,937	908
2009年	127,787	716
2010年	133,515	674
2011年	144,355	697
2012年	181,125	829
2013年	180,166	1,027
2014年	180,874	1,117
2015年	185,615	1,142
2016年	172,395	993
2017年	179,251	1,091
2018年	166,381	1,075
2019年	176,286	1,107

ボトルワインの国別輸入数量推移

(2019年分の上位6か国分)

年	チリ	フランス	イタリア	スペイン	米国	オーストラリア
1995年	390	34,416	10,753	2,402	6,778	1,500
1996年	1,986	28,909	14,276	2,212	6,728	1,611
1997年	5,545	43,558	19,016	3,396	7,437	1,922
1998年	27,591	103,362	45,542	10,293	18,388	4,529
1999年	6,434	53,703	22,527	5,643	13,161	3,674
2000年	8,571	52,068	25,127	4,728	12,468	4,342
2001年	9,085	58,154	29,327	5,067	11,357	3,625
2002年	7,820	60,963	27,739	5,990	10,151	4,162
2003年	7,411	55,874	25,417	6,536	12,108	5,034
2004年	7,933	59,289	22,623	6,921	12,180	6,702
2005年	7,507	53,749	21,655	7,123	10,733	8,231
2006年	8,007	55,119	22,717	7,182	11,133	6,208
2007年	10,518	52,589	22,717	8,237	9,984	7,240
2008年	13,293	49,982	22,807	8,811	7,739	7,352
2009年	17,381	48,701	23,621	12,301	8,098	8,377
2010年	21,335	47,159	24,872	13,688	8,704	7,468
2011年	24,175	50,455	28,260	15,814	9,260	6,405
2012年	31,583	60,046	34,768	24,656	10,550	7,250
2013年	36,435	56,689	33,271	23,403	11,552	6,840
2014年	43,695	52,991	33,835	21,005	9,635	6,790
2015年	51,593	51,521	34,643	20,216	9,300	6,945
2016年	50,535	45,711	32,093	19,403	6,572	6,922
2017年	55,519	45,523	33,590	19,761	6,876	7,144
2018年	51,416	42,203	30,237	17,521	7,175	6,856
2019年	47,213	47,118	35,497	20,363	7,845	6,257

スパークリングワインの輸入数量・金額推移

(単位 数量:KL 金額:億円)

年	輸入数量	輸入金額
1988年	2,418	26
1989年	3,494	49
1990年	4,551	82
1991年	4,500	77
1992年	4,267	77
1993年	4,565	60
1994年	6,060	77
1995年	7,146	94
1996年	7,522	105
1997年	8,380	123
1998年	9,938	134
1999年	11,845	165
2000年	10,697	144
2001年	12,429	170
2002年	13,298	183
2003年	13,891	210
2004年	16,445	264
2005年	15,815	265
2006年	19,799	391
2007年	20,713	428
2008年	23,046	406
2009年	20,528	232
2010年	23,796	288
2011年	24,806	295
2012年	29,317	345
2013年	30,975	399
2014年	33,403	495
2015年	34,021	532
2016年	35,526	531
2017年	36,353	609
2018年	36,115	681
2019年	43,828	757

ボトルワインの港別輸入数量(2019年)

(単位 数量:KL)

港	輸入数量
東京港	73,790
横浜港	43,531
大阪港	21,810
神戸港	8,156
成田空港	7,651
名古屋港	3,504
その他	17,843
全体	176,286



ボトルワインの月別輸入数量(2019年)

(単位 数量:KL)

2019年	航空貨物	(参考)全体
1月	69	10,321
2月	65	14,518
3月	92	12,460
4月	62	17,561
5月	69	15,023
6月	133	13,250
7月	40	15,989
8月	62	16,915
9月	33	14,478
10月	184	14,975
11月	3,532	18,352
12月	139	12,443
1-12月計	4,480	176,286

日本酒の輸出数量・金額推移

(単位 数量:KL 金額:億円)

年	輸出数量	輸出金額
1988年	6,588	22
1989年	6,783	26
1990年	6,888	27
1991年	7,398	28
1992年	6,945	27
1993年	7,673	27
1994年	8,833	30
1995年	8,613	30
1996年	10,402	39
1997年	8,364	36
1998年	8,089	34
1999年	7,292	28
2000年	7,417	30
2001年	7,052	32
2002年	7,504	35
2003年	8,270	39
2004年	8,796	45
2005年	9,537	53
2006年	10,269	61
2007年	11,334	70
2008年	12,151	77
2009年	11,949	72
2010年	13,770	85
2011年	14,022	88
2012年	14,131	89
2013年	16,202	105
2014年	16,314	115
2015年	18,180	140
2016年	19,737	156
2017年	23,482	187
2018年	25,747	222
2019年	24,928	234

日本酒の国(地域)別輸出数量推移
(2019年の上位5か国(地域)分)

(単位 数量:KL)

年	米国	中国	韓国	台湾	香港
2005年	2,997	262	399	2,133	961
2006年	3,354	426	665	1,991	877
2007年	3,852	468	1,069	1,700	1,006
2008年	3,843	482	1,529	1,626	1,213
2009年	3,575	485	1,954	1,381	1,308
2010年	3,705	625	2,590	1,639	1,436
2011年	4,071	375	2,828	1,680	1,660
2012年	3,952	666	2,904	1,603	1,492
2013年	4,489	896	3,502	1,747	1,716
2014年	4,341	1,074	3,221	1,742	1,613
2015年	4,780	1,576	3,367	2,112	1,745
2016年	5,108	1,910	3,695	2,096	1,877
2017年	5,780	3,341	4,798	1,985	1,807
2018年	5,952	4,146	5,351	2,238	2,097
2019年	6,452	5,145	2,912	2,246	1,926

日本酒の港別輸出金額(2019年)

(単位 金額:億円)

港	輸出金額	構成比
神戸港	68	29.0%
東京港	40	16.9%
横浜港	33	14.2%
大阪港	25	10.7%
博多港	14	5.9%
川崎港	13	5.7%
その他	41	17.5%
合計	234	100.0%

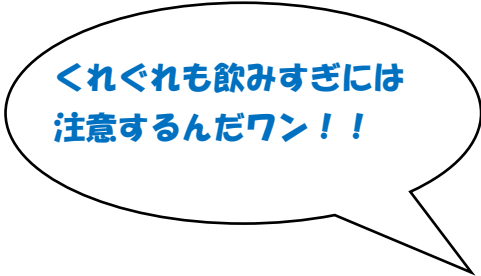
日本酒の輸出数量・金額推移(航空輸送分)

(単位 数量:KL 金額:百万円)

年	輸出数量	輸出金額
2009年	41	88
2010年	44	86
2011年	33	67
2012年	29	68
2013年	50	113
2014年	63	212
2015年	112	417
2016年	124	578
2017年	174	733
2018年	193	1,346
2019年	204	1,604

参考資料:森覚,「見て覚える ワインの絵事典」, 新星出版社, 2020, 191p

取材協力:日本洋酒輸入協会
日本酒造組合中央会

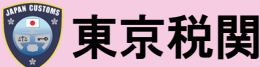


本資料を引用する場合、東京税関の資料による旨を注記して下さい。

本資料に関するお問合せは以下へお願いします。
東京税関 調査部 調査統計課 TEL:03-3599-6385

貿易統計の数値はインターネットでも検索できます。

財務省貿易統計



〒135-8615 東京都江東区青海2-7-11 東京港湾合同庁舎
<http://www.customs.go.jp/tokyo/>